

# 生きがいを見つけ 健康で長生きを!



自作の折り紙作品を手に、川田さん

九月十五日の「敬老の日」を前に、老後の生きがいや健康を保つため、いろいろな趣味に取り組んだり各種学級に参加するなど、生き生きと充実した毎日を送っているお年寄りを訪ねてみました。

いつまでも若い気持ちで――

川田益治さん (後免町)

「病気は軽い風邪くらいで、医者にかかることはめったにありません」と川田益治さん。現在、後免町で長男ご夫婦と三人で暮らしています。この六月に八十八歳を迎えたとは思えないくらいに元氣なおばあちゃんです。

その秘けつはと尋ねると「特別なことはないですが、気持ちよく若く持つて、物事に腹を立てないように、そして、食べ過ぎないように気をつけています。夕食前に飲むコップ一杯のビールはおいしいですね」と、にこやかに答えてくれました。

目、耳も確かテレビや新聞を見るときも眼鏡は必要ないし、自分の着物は全部自分で縫います。

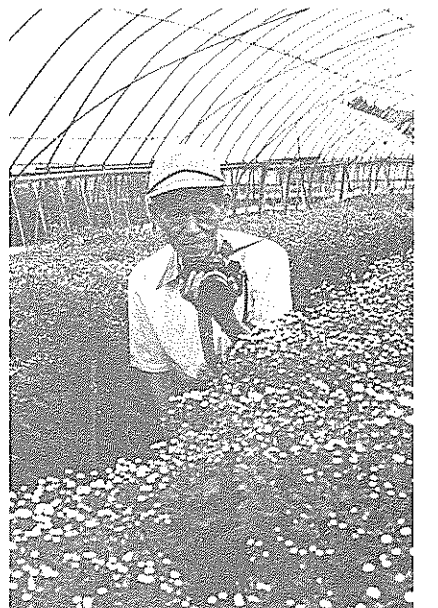
また、昭和二十五年からずっと一日も欠かさず日記をつけており「毎晩つけないと気がすまない」とのこと。記憶方もよく、家族の方が昔のことを尋ねると、すぐに答えが返ってくるそうで、まだまだ若い者には負けていません。

それに、足腰も達者で、市教育委員会主催の中央高齢者教室や折り紙教室の会場には、歩いて出かれます。

高齢者教室へは昭和五十一年から参加しており、ご主人を亡くされたときに一回欠席しただけです。折り紙教室では、学級生の中で一番の高齢者。「休むのは嫌だし人に負けたくない」と自宅や友人宅で熱心に作品を仕上げます。

また、四季折々には野山で花見を楽しむなど、行動派でもありません。「若いときには仕事や子育てなど、忙しかったので今、その思いをかなえています」と明るく話してくれました。

毎日の生活を生き生きと楽しく、学習する心を忘れないおばあちゃん。いつまでも若く、優しい笑顔で長生きしてください。



カメラを構えた姿がピタリときまる

園芸の写真を趣味に

水田勝清さん (岡豊町)

「園芸技術の指導書がなかったころ、先進地の技術を写しに行つたのがカメラとの付き合いの始まりで、趣味というよりは仕事だった」と、昔を振り返る水田さん。終戦後もなく、園芸組合の役員をしていた水田さんは、関西や関東の先進地の農家へ、カメラを掲げて、その技術を教えてもらいに行きました。

「最初は農家の人も、なかなか教えてくれなかったが、泊まり込みで畑仕事を手伝いながら、写真を一枚一枚とって来て勉強した。当時は、カメラも高価なものだったが、技術が身に付けば安いものと思った。また写真が珍しかった

## 力を合わせ共に生きてきた50年

### ◆◆金婚夫婦祝福式◆◆

五十年の風雪に耐え、共に力を合わせて生きてきた夫婦を祝う「金婚夫婦祝福式典(高知新聞社主催)」が九月一日、県十六会場で開かれ、南国会場となった社会福祉センターには、香美・長岡郡からも含め、百四十八組が出席しました。

午後二時、まず神事が行われた。

後、主催者を代表して高知新聞社の金山光利常務は「激動の時代に生きてこられた皆さん、今までの経験や知恵を生かし、いつまでも若々しくいてください」と祝福の言葉を送り、武市友茂さん、澄江

さん夫婦(大埔)に記念品を贈呈。そして、吉本助役らが「これからも社会の発展のために、皆さんの豊富な経験や意見をお願いします」と祝福。

これに答えて、土居大興さん、



祝福を受けた金婚夫婦

金婚を迎えられた42組の夫婦

石本 茂(74)清 子(69)	物 部	池田 慶記(75)静 忠(69)	小 籠
津吉 春信(81)普 世(71)	立 田	岡崎 登土治(74)綾 子(68)	"
村山 豊吉(76) 静 (71)	"	山本 渚(77)た よ(72)	"
末政 晋(72) 栄 (73)	田 村	高橋 六猪(75)寿 美(71)	廿 枝
吉本 一之(70)千代江(69)	"	中沢 満則(76)幸 忠(69)	"
西尾 肇(72)藤 尾(71)	福 船	和泉 寛(77)二 子(72)	圃 分
多田 福治(72)春 亀(69)	包 末	岩川 忠喜(76)豊 子(74)	"
村田 一(83) 輝 (77)	西 山	門田 早苗(72)フ ク(71)	植 田
植野 馨(76)夏 喜(69)	上末松	西本 忠喜(73)満 意(68)	"
蒲原 義熊(79) 繁 (72)	"	岡林 啓(71)繁 美(69)	亀 岩
島田 宏(77)清 子(70)	"	竹内 政治(71)啓 子(70)	中 島
岡林 清志(75)キヨ子(70)	下末松	橋村 重利(74)政 子(72)	滝 本
岩崎 作治(73)綾 子(67)	大埔甲	浜田 将(76)慶 猪(71)	八 幡
島崎 光輝(76)喜 美(73)	"	森本 武美(75)輝 子(73)	定林寺
武市 友茂(76)澄 江(69)	大埔乙	山本 薫(82)君 香(77)	久 枝
田中 勝(74) 緑 (71)	"	竹村 林(73)初 美(69)	前 浜
三浦 盛義(75)絹 枝(72)	"	弘光 直一(76)兼 猪(73)	"
溝延 賢吉(72) 富 (66)	"	野村 友猪(71)年 子(69)	浜改田
吉川 秀雄(79) 豊 (78)	"	平松 幾猪(80)亥佐美(80)	"
福川 藤茂(78)於 絳(72)	東 崎	土居 太興(74) 幸 (69)	十 市
松島 鉄也(77)律 子(69)	"	山本 清志(75)佐恵子(72)	"

## 敬老の日に 思うこと

数年前から「高齢化社会」の到来がクローズアップされており、二十一世紀前半には、超老人国が実現するだろうと言われています。欧米の高福祉社会を検討しながら、我が国の老人福祉対策について、それぞれの立場で検討がされているところですが、しかし、行政のみで解決できるものでなく、「老い」はだれもが避けて通れない宿命として、私たち一人一人が協力して考えなければならぬと思います。

敬老の日に近づくと、マスコミ関係で多く取り上げられ、見聞いたしますが、大らかな心のある方だと思えます。恵まれている欧米の人たちも、心の問題を忘れていないから現状に不満があるようです。どんなに社会保障が行き渡っても、完璧ではあり得ません。

幸いにして昔から、東洋の人々は、伝統的に敬老精神があります。老人を尊敬し、隣人をいたわる日本古来の美風を、封建主義の古い物といっしょに捨て去っている今日、もう一度考え直し、みんなの力で生きがいを感じる社会をつくる時期ではないでしょうか。

ある初老から